

普及指導員調査研究報告書

課題名：越冬甘熟みかん「ひとめぼれ」の生産拡大に向けた取り組み

下関農林事務所農業部 担当者氏名：大島尚恵・村上哲一・藤村澄恵・
山根憲資・磯部敏之

<活動事例の要旨>

越冬甘熟みかん「ひとめぼれ」の生産拡大に向け、アンケート調査を通して生産者、下関柑橘組合、農協の意向を収集し、それらを基にした活動を展開した。

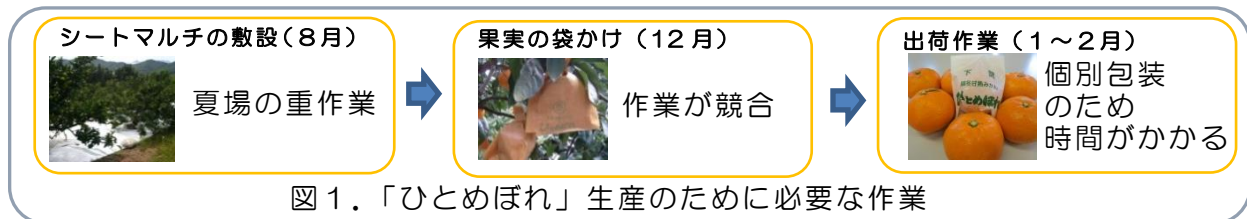
1 普及活動の課題・目標

(1) 課題

- ・ 早生や中生温州みかんを年明けまで樹上で越冬させた「ひとめぼれ」は食味が良く高単価で取引されるため、下関柑橘組合、農協とも生産量を維持・拡大したい意向を持つ。
- ・ しかし、一般的な温州みかん栽培にはない作業（下図 1 参照）が必要で、手間がかかるため、平成 19 年以降生産量は減少し、平成 27 年産の生産量は最盛期の約 3 分の 1（10 t の見込み）となっている。
- ・ そこで、アンケート調査を通して、生産者、組合、農協の意向を収集し、それらを基にした取組を推進することで、「ひとめぼれ」の生産に向けた機運を醸成することとした。

(2) 目標

- ・ 高齢者でも取組やすい省力化技術の確立および新規取組者の確保により、生産量の維持・拡大を図る。
- ・ 「ひとめぼれ」のネーミングを活かした販売を行うことで、話題性を高め、生産者が楽しみや誇りを持って販売できるブランドにする。



2 普及活動の内容

(1) アンケート調査を通じた情報収集

- ・ 生産者の「ひとめぼれ」栽培に対する思いや実際の栽培方法を把握し、課題を整理するために生産者に対し、アンケート調査を実施した。
- ・ アンケートの質問内容に関する協議を通して、組合、農協に聞き取り調査を行い、情報収集を行った。

《アンケート調査結果》

表 1. 「ひとめぼれ」生産者の栽培状況

生産者	A		B		C		D		E		F		
果実の袋かけ方法	米袋、ブルーシート		個装、米袋		ブルーシート		個装、米袋		個装、米袋、ハウス		個装、米袋		
作業労力	シートマルチ敷設	人数	時間	家族2	2日	家族2	2日	家族2	4日	家族2	2日	家族3	2日
果実の袋かけ	家族2	3日	家族2	雇用5	3日	家族2	5日	家族1、雇用1	7日、5日	家族2、雇用1	3日	家族3	5日
収穫	雇用3	1日	家族2、雇用5	2日	家族2	5日	家族2、雇用2	2日、2日	家族2、雇用1	3日	家族3	5日	
化粧袋詰め	家族2		家族2、雇用5	3日	家族2	3日	家族1	4日	家族2、雇用1	4日	家族3、雇用2	4日	
大変な作業	シートマルチ敷設		果実の袋かけ、出荷作業		防鳥・防風ネットの管理		果実の袋かけ、改植助成		シートマルチ敷設		出荷作業、改植助成		
期待する支援策	資材経費助成		労力確保、省力化		—		労力確保、省力化、資材経費助成		省力化、資材経費助成		資材経費助成、改植		
労力を補足したい作業	出荷作業		果実の袋かけ		—		果実の袋かけ、出荷作業		—		—		
省力化したい作業	シートマルチ敷設		出荷作業		—		—		シートマルチ敷設		—		

表 2. 「ひとめぼれ」に取り組んでいない生産者の意向

質問	ひとめぼれを生産していた: 11名			質問	ひとめぼれを生産したことがない: 9名		
1	やめた理由	労働力不足	6	1	生産しない理由	栽培方法を知らない	3
		体力不足	5			労働力不足	7
		樹が古い	2			作業時間の不足	6
		採算が合わない	3			樹が古い	4
		その他	1			興味なし	2
2	取組再開要望	作業省力化	7	2	取組開始要望	栽培方法指導	1
		労働力確保	1			省力化	2
		資材経費助成	2			労働力確保	1
		改植助成	1			資材経費助成	0
		再開意向なし	4			改植助成	1
						開始意向なし	6
						その他	0

(2) 組合、農協の意向を重視した推進方策の決定

- ・ アンケート調査及び聞き取り調査の結果を関係機関で共有し、対応策を協議した。
- ・ 協議において、農林事務所は対応策を提示するとともに、組合や農協から具体的な提案が挙げられるように働きかけた。

(3) 推進方策の実施

協議により得られた推進方策のうち本年度は以下の内容に取り組むこととした。

① 新たな果実の袋かけ省力化技術（簡易ハウスの設置）の検証

中古ハウス骨材でトンネルを作り、収穫までハウスビニルで被覆した。また、表 3 に示した項目について、現場で行われている袋かけ作業（個装＋米袋を利用した枝被覆）と比較した。



図 2. 簡易ハウスの設置前



図 3. 簡易ハウスの設置後

《果実の袋かけ省力化技術の検証結果》

表 3. 果実の袋かけにかかる作業時間、経費、精果率の比較（聞き取り調査）

	個装＋米袋	簡易ハウス
作業時間	3.5 時間／本	30 分／本
資材経費	約 1,200 円／本	約 28,400 円／本 (耐用年数で割ると 年間約 4,400 円／本)
作業労賃	8,400 円／本（3 人分）	2,000 円／本（5 人分）
合計費用	9,600 円／年・本	6,400 円／年・本
精果率	45%	50%

- ②「ひとめぼれ」栽培マニュアルの作成
以前より要望のあった「ひとめぼれ」マニュアルを完成させ製本化する。
- ③出荷作業の見直し、改良
出荷用化粧袋の資材や包み方を見直し、改良する。

3 普及活動の成果

(1) アンケート調査

- ・ アンケート調査を通し、生産者が現在実施している栽培方法や大変だと感じている作業を整理できた。
- ・ これまで農林事務所が推進してきた果実の袋かけ省力化技術の改善点を見出すことができた。

(2) 組合、農協の意向を重視した推進方策の決定

- ・ 関係機関との協議により、以下の具体的な推進方策を組合、農協から引き出すことができた。

《組合から引き出したアイデア》

- ・ 簡易ハウスによる果実の袋かけの新たな省力化技術の検証
- ・ 出荷用化粧袋の包み方を見直し及び改良
- ・ 「ひとめぼれ」栽培マニュアルの作成
- ・ 「ひとめぼれ」のネーミングを活かした新たな商品の開発

《農協から引き出したアイデア》

- ・ 労力補完のしくみ作り
- ・ 出荷用化粧袋等の資材の見直し及び改良
- ・ 出荷箱への詰め方を見直し及び改良

(3) 簡易ハウスによる果実の袋かけの省力化技術の検証

従来の果実袋かけよりも省力・低コスト化が図られ、試験実施生産者より、精果率が高まったとの意見が得られた。

4 今後の普及活動に向けて

(1) 簡易ハウスによる省力化技術の普及・定着

簡易ハウスによる省力化技術は樹別交互結実栽培園での実施が有効であることから、農家の栽培状況に合わせて技術の普及・定着を図る。

また、中古ハウス骨材の確保やハウス骨材設置など円滑な技術活用を開始できる環境整備を図る。

(2) 今年度予定していた推進方策の実施

- ・ 「ひとめぼれ」栽培マニュアルの作成
- ・ 出荷作業の見直し・改善

(3) 部会、農協から引き出したアイデアに沿った活動の実施

- ・ 労力補完のしくみ作り
- ・ 「ひとめぼれ」のネーミングを活かした新たな商品の展開